

田の神さまの振る舞いっこ



表紙 割烹 金剛

vol. **98** February 2023

contents 目次

- 06 八戸えんぶりガイド 2023
- 08 ランチ情報
- 12 タウンウォッチ
- 13 野菜歳時記
- 14 ショッピング情報
- 16 ビューティー & ヘルシー情報
- 20 求人 Information
- 21 食育エッセイ
- 22 歓送迎会特集
- 28 はちのへ TAKEOUT Gourmet
- 31 プレゼント & クーポン

ホームページ公開中

パソコン
<http://www.webwell.jp>
ケイタイ
<http://www.webwell.jp/mobile/>



昔々あった。ある田植えどき、殿様は家来をつれて山さ狩りに出掛けた。山ふもとの村まで来た。村の人たちが「ワァワァ」と騒いでいた。殿様は「何事ぞ?」と見たら田の中で田男だちが田の泥を握り、田植えの顔に塗りつけようといひかけていたのだ。田植えのこぢは喜んで「キャッキャ」と逃げ回っていたのだ。奥の方では苗代から上がって、奥の方で一升びん立てて酒を呑んでいた。横の方では机すりや型つけの親父たちが道具を置いて笑っている。田植えの人は、馬と一緒に休んで睨んでいた。殿様は「田植えもしないで何、馬鹿な事をしてるのだ」と思った。そしたらその時、一人の

田植えのこが両手に苗束を持って、パツパツと殿様の方へ向って来た。家来があわてて両手を広げて止めた。その田植えの顔を覗いたらなんと泥だらけだった。振り向いた村の人の顔も何んと泥が点々といっていた。赤ん坊の顔にも泥がちよんちよんとついていってしまった。家来にとめられた田植えのこは大きな声で云った。「お殿様、良く来て下さいました。今日は田の神様のお祝いの日です。豊年万作を祈って皆で顔に泥を塗る日です。どうぞ、お殿様も田の神様の振る舞いっこに、かだつて下さい。」

万作を祈って泥をちよんちよん「と、馬から降りて手を差し出した。田植えのこは喜んで殿様の手に苗の泥をつけた。そして殿様はすぐ自分の手で顔に泥を塗った。余った泥は自分の馬の鼻にも塗ってやった。それを見た村の人たちが「ワァッ豊年万作だ」と声をあげて喜んだ。家来も殿様と同じに喜んだ。それから殿様は山へ入って行かず、さあさあその日の山狩りではなく、なんと大獵だった。殿様は田の神様のご利益だと大喜びして城に帰った。次の日、殿様は山ふもとの村長と、あの田植えのこを城に呼んだ。村長は「泥つけは田植えの前にはやる昔からの習わしです。近くの村の若者や娘が手伝いに



そとめ 田植えのこ... 早乙女、田植えをする若い女
たおこ 田男... 苗を配ったり田に苗を撒く男
かだる... 加わる、参加する

来るので嫁選びや婿選びにもなっています」と云った。泥を落としたり、あの田植えのこは、たまげた色白できれいな顔をして、殿様は「これは良い習わしじゃ。続けよ」と豊年を願って二人にほうびをいっばいくれた。どつとはれ